

地震災害対応マニュアル

(学生用)



岐阜大学
GIFU UNIVERSITY



地震災害対応マニュアル目次



災害に対する心構え ・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

地震発生後の行動フロー図 ・・・・・・・・・・・・ 2

安全確保行動マニュアル

2 ケース別の対応事例

キャンパス内 5

エレベーター内 (フロー図) 6

キャンパス以外 ・・・・・・・・・・・・ 7

安否確認・被害状況調査マニュアル

1 安否確認

2 被害状況調査 8 9

4 休講・授業再開の連絡 10

岐阜市 地震ハザードマップ 11-12



災害に対する心構え



日頃から、**防災知識**を身につける



日頃から、**避難場所、避難経路**を確認しておく



日頃から、**情報連絡網**を確認しておく



日頃から、**帰宅困難**に備えておく



日頃から、**ハザード防災知識**を身につける



日頃から、**応急手当**の方法を覚えておく

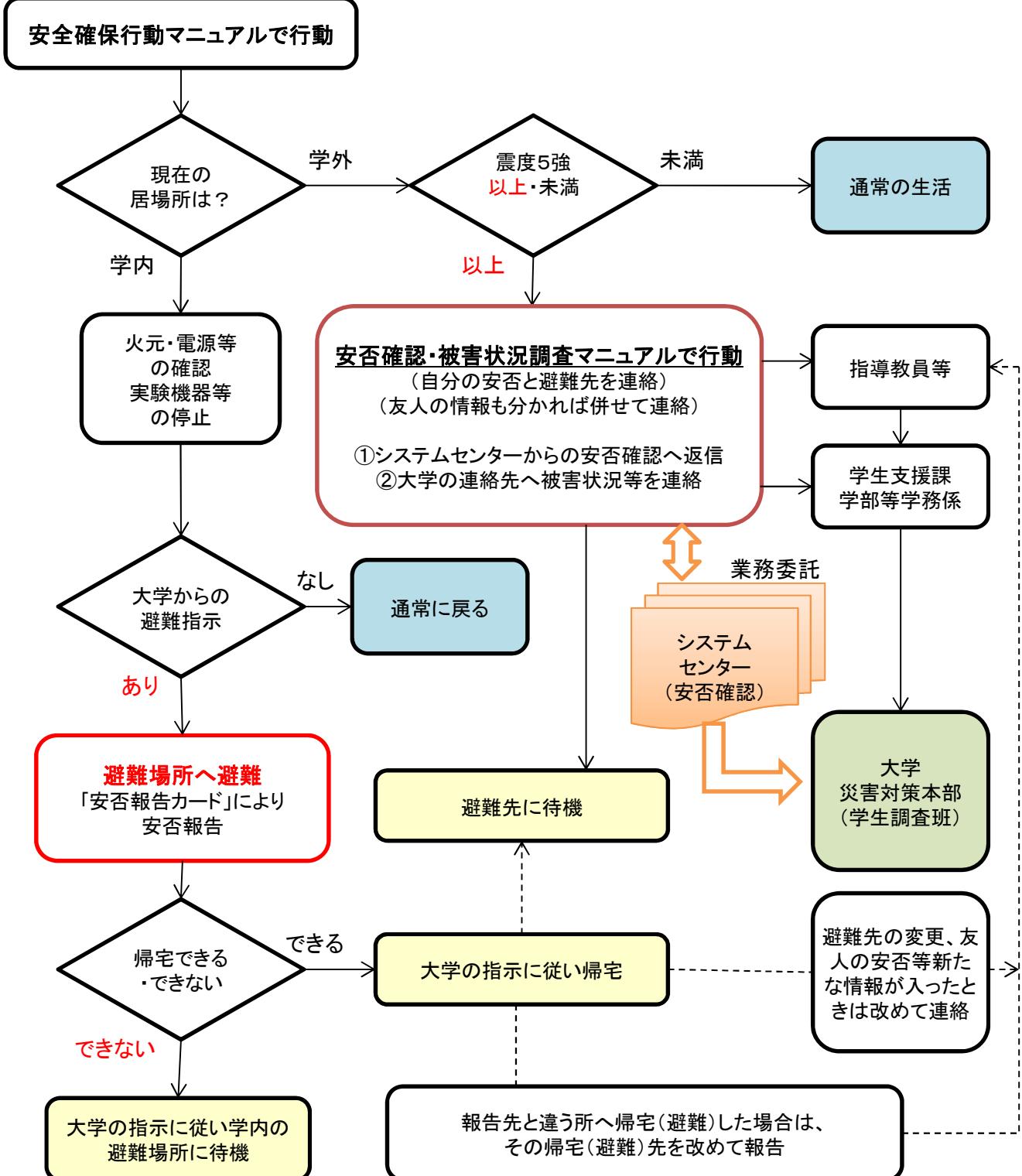


防災訓練に必ず参加する





地震発生後の行動フロー図



安全確保行動マニュアル



1 個々人での行動

地震直前

緊急地震速報が発出されたら、周りの人に知らせ、身を守る準備！
火を消す。安全な場所への避難、机の下等へ



地震発生

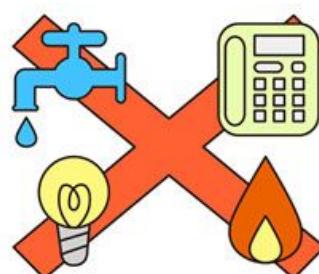
1. 先ず、身を守る！
書棚・キャビネットから離れる、机の下へ
2. すばやく火の始末！
ガスの元栓、コンセント、実験器具
3. 非常脱出口の確保！
ドア付近にいる者は余裕があればドアを開ける

ケース別の対応事例 次頁

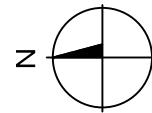


揺れがおさまったら

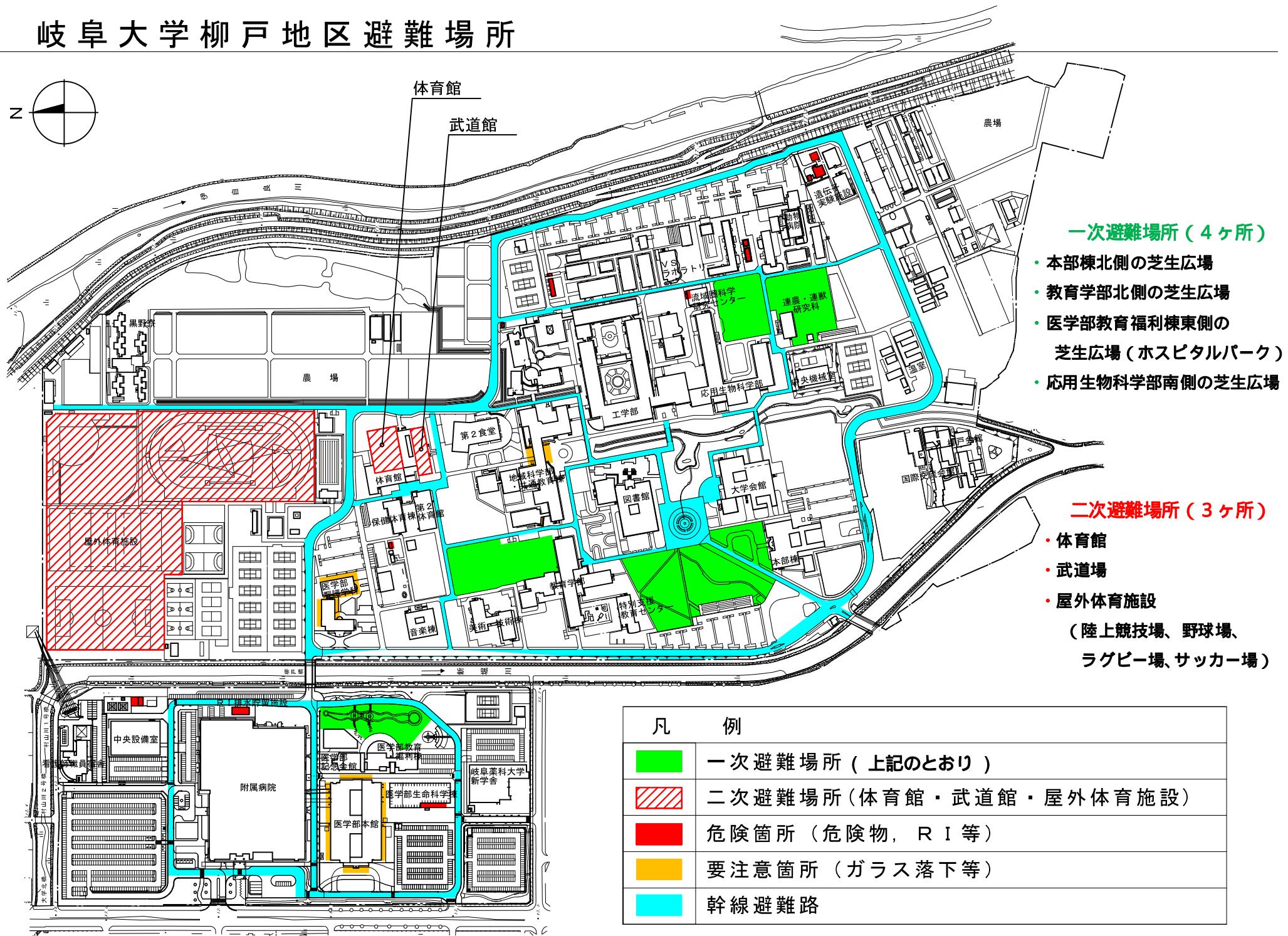
1. 火元を確認！
火が出たら、落ち着いて初期消火
2. 同教室、同室員の安全を確認！
倒れた書庫等の下敷きになっている人がいないか確認し、救出活動にあたる
(救助又は応援要請)
3. 作業中の実験器具等の停止！
4. 隣接する部屋で助け合う！
他の部屋・教室などで倒れた書庫等の下敷きになっている人がいないか確認
し、救出活動にあたる (救助又は応援要請)
5. 余震に注意！
建物の状況により、余震で倒壊する恐れがないと判断されるまで、ひとまず
建物外に待避するため、最寄りの一次避難場所 (次頁別紙) に移動
6. その後、対策本部の指示により、二次避難場所 (体育館、武道場、屋外体育施設)
(次頁別紙) へ避難



岐阜大学柳戸地区避難場所



-4-





2 ケース別の対応事例

キャンパス内

《 授業中 》

- (1) 摆を感じたら、机や実験台の下に隠れ、カバンや上着等で頭を保護する。
- (2) 摆が収まつたら最寄りの一次避難場所に移動する。

《 講義室・講堂で講演を聴いているとき 》

- (1) 摆を感じたら、まずは椅子の間にしゃがみ、カバンや上着等で頭を保護する。
- (2) 摆が収まつたら最寄りの一次避難場所に移動する。

《 実験中 》

- (1) 摆を感じたら、まずは身の安全を確保できる場所に移動する。
- (2) 摆が収まつたら、実験を中止し、火の始末をして、最寄りの一次避難場所に移動する。

《 学内移動中 》

- (1) 摆を感じたら、ガラスの落下等、今いる場所の上下左右に注意し、最も安全と判断できる場所で、身の安全を確保する。
- (2) 摆が収まつたら最寄りの一次避難場所に移動する。

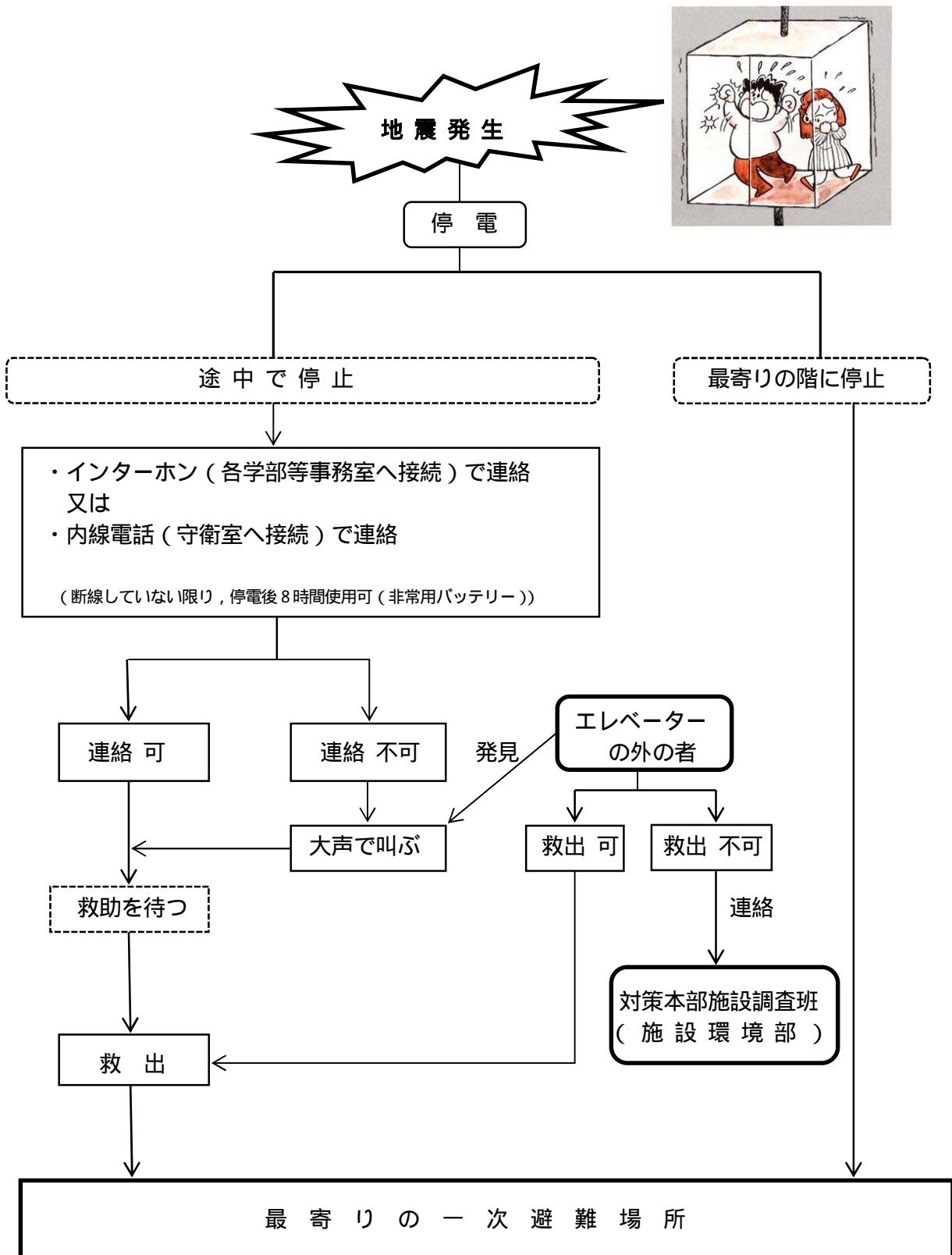
《 エレベーター内 》

- (1) 最寄りの階に停止し、扉が開いたら階段を利用して避難する(身の安全を確保する)
- (2) 途中停止し、中に閉じ込められた場合は、インターホン(各学部等事務室へ接続)・内線電話(守衛室へ接続)にて連絡を取り外部からの救出を待つ(エレベーター内のインターホン・内線電話は、断線していない限り停電後8時間使用できる(非常用バッテリー搭載))。
インターホン・内線電話により連絡ができない場合は、エレベーター内で大声をあげて救助を求める。
- (3) エレベーター内に閉じ込められた者がいた場合は施設調査班へ連絡する。
- (4) エレベーターから出た後は、最寄りの一次避難場所に移動する。

《 学生寮内 》

- (1) 基本的には、教室等にいるときと同様に、あわてて外へ飛び出さず、机の下等に身をかくし揆がおさまるのを待つ。
- (2) 摆が収まつたら最寄りの一次避難場所に移動する。

エレベーター内（フロー図）



キャンパス以外

1 乗り物に乗っているとき

- ・急停車に備え、つり革・手すりなどにすぐつかまる。
- ・停車しても、勝手に非常コックを使って車外へ出たり、窓から飛び出したりせず、乗務員の指示を待つ。
- ・特に地下鉄などは、線路横に高圧電流が流れており極めて危険。

2 地下にいるとき

- ・あわてて出入り口に殺到せず、いったん壁や太い柱に身を寄せ、係員の指示に従う。
- ・停電になっても非常用照明灯がすぐつくので、落ち着いて行動する。
- ・出火がある場合は、近くの消火器ですばやく消火する。
- ・地下での火災は煙や有毒ガスが充満しやすく危険である。ハンカチなどで鼻と口を覆い、体をかがめて這うように壁伝いに煙の流れる方向へ避難する。

3 路上にいるとき

- ・その場に立ち止まらず、衣服や持ち物などで頭を覆いながら近くの空地、公園や頑丈そうなビルの中へ避難し、落下物からの危険を回避する。
- ・ブロック塀や自動販売機など設置物のそば、ビルの壁際などへは近づかない。
- ・垂れ下がった電線には近づかない
- ・崖や川ベリは、地盤が緩み崩れやすくなっている場合があるので近づかない。
- ・地面の亀裂、陥没や電柱、塀等の転倒に注意する。

4 自宅等にいるとき

- ・基本的には、教室等にいるときと同様に、あわてて外へ飛び出さず、机の下等に身をかくし揺れがおさまるのを待つ。
- ・足元の散乱物や落下物に注意して避難などの対応を行う。



安否確認・被害状況調査マニュアル

学生安否確認マニュアル

1 安否確認

震度5強以上の地震発生と同時に、契約業者のシステムセンターから、全学生に【安否確認】のメールを一斉に自動送信し、返信情報を集約する。

[学生からの返信情報 あ：無事、か：負傷、さ：その他]

2 被害状況調査

(1) (具体的な内容については、現在準備中ですので、詳細は、確定後に記載します。)

(2) 学生が電子メールを受信できない状況にある場合は、地震発生後、落ち着いた時点で、大学が次の方法で調査します。

地震発生時に大学にいるとき

避難場所において【安否確認カード】を配布し、その場で記入、回収します。

地震発生時に大学にいないとき

電子メール、FAX、電話、NTT災害伝言ダイヤルにより所属学部・研究科の事務室に安否と被害状況を連絡してください。

【安否報告カード（学生用）】

安否報告カード	
記入日時	月 日 時 分
所属	
学籍番号	
氏名	
負傷の有無	無 有 ()
連絡方法 (携帯電話番号等)	
自宅に帰宅できるか、 避難先に行くか等	自宅 避難先() その他()

【大学への連絡用メール】

メールアドレス : anpi@gifu-u.ac.jp (例)

報告事項	
報告日	
所属	
学籍番号	
氏名	
本人や家族の 負傷の有無	
自宅の損壊状況	
避難先	
連絡方法 (携帯電話番号等)	

【大学への電話等連絡先】

FAX又は電話で連絡する場合も同様に上記内容を報告する。

<連絡先一覧表>

部 局	FAX	TEL
教育学部・教育学研究科	058-293-2207	058-293-2206
地域科学部・地域科学研究科	058-293-3008	058-293-3326
医学部・医学系研究科(看護以外)	058-230-6074	058-230-6075
医学部・医学系研究科(看護)	058-293-3219	058-293-3217
工学部・工学研究科	058-293-2379	058-293-2377
応用生物科学部・応用生物科学研究科	058-293-2841	058-293-2838
連合農学研究科	058-293-2992	058-293-2984
連合獣医学研究科	058-293-2992	058-293-2987
連合創薬医療情報研究科	058-293-3273	058-293-7602
学術国際部留学生支援室	058-293-2143	058-293-2137
学務部教務課	058-293-3382	058-293-2133

3 家族の安否確認

家族・友人との安否連絡をとる場合は、NTT災害伝言ダイヤル、携帯電話による情報登録検索、インターネットによる情報登録検索等を利用する。

日頃から、震災時にどのように連絡をとれるのか決めておく。

【NTT災害伝言ダイヤル「171】

メッセージ録音 171+1+自宅等の電話番号(市外局番から)

メッセージ再生 171+2+自宅等の電話番号(市外局番から)

伝言録音時間 30秒、伝言保存期間 48時間

日頃から、災害伝言ダイヤル「171」の利用方法を理解しておくこと

【携帯電話による情報登録検索】

携帯電話各社から災害発生時に安否情報を登録検索できるサービスが提供されるので利用する。

NTT docomo	「災害用伝言板」 iモード→iMenuトップ→「災害用伝言板」 http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/
au	「災害用伝言板サービス」 Ezweb→トップメニュー→「災害用伝言板」 http://www.au.kddi.com/notice/saigai_dengon/index.html

【インターネットによる情報登録検索】

主要な検索エンジンからリンクが張られているので、そのサービスを利用する。

4 休講・授業再開の連絡

休講や授業再開のお知らせは、決定後速やかに、大学のホームページ、AIMS-Gifu、メディア(テレビ、ラジオ、新聞)又はNTT災害伝言ダイヤル「171」により行う。

【NTT災害伝言ダイヤル「171】

メッセージ再生 171+2+大学の電話番号(市外局番から)

大学の電話番号：058-230-1111

日頃から、災害伝言ダイヤル「171」の利用方法を理解しておくこと

震度マップ



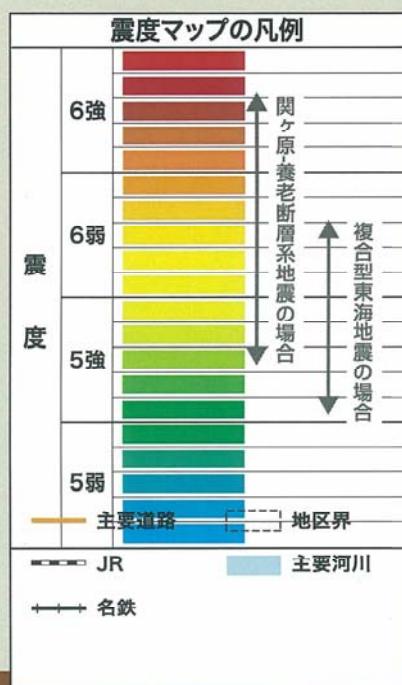
岐阜県内の主な内陸直下型地震と
海溝型地震の断層概略位置



地震ハザードマップの見方

岐阜市では、地震による被害が大きいとされる上図に示した「関ヶ原-養老断層系」による地震と、切迫性の高い「複合型東海地震」を想定地震として、予想される震度等をマップに示しました。

この面には、「関ヶ原-養老断層系」による地震及び複合型東海地震の岐阜市全域の震度を、裏面には、お住まいの地区毎の震度、建物の倒壊危険度、液状化の危険度をマップに示しました。



災害時の情報入手先

(以下のホームページのほか、テレビ・ラジオなどからの情報収集に努めてください。)

●岐阜市防災のホームページ

<http://www.city.gifu.lg.jp/c/40113387/40113387.html>

●気象庁(地震情報)

<http://www.jma.go.jp/jp/quake/>

44 岐阜県総合防災ポータル

<http://www.bousai.pref.gifu.lg.jp>

●内閣府(防災情報のページ)

<http://www.bousai.go.jp/>

災害用伝言ダイヤル 171

(家族間などの、安否の確認連絡に)

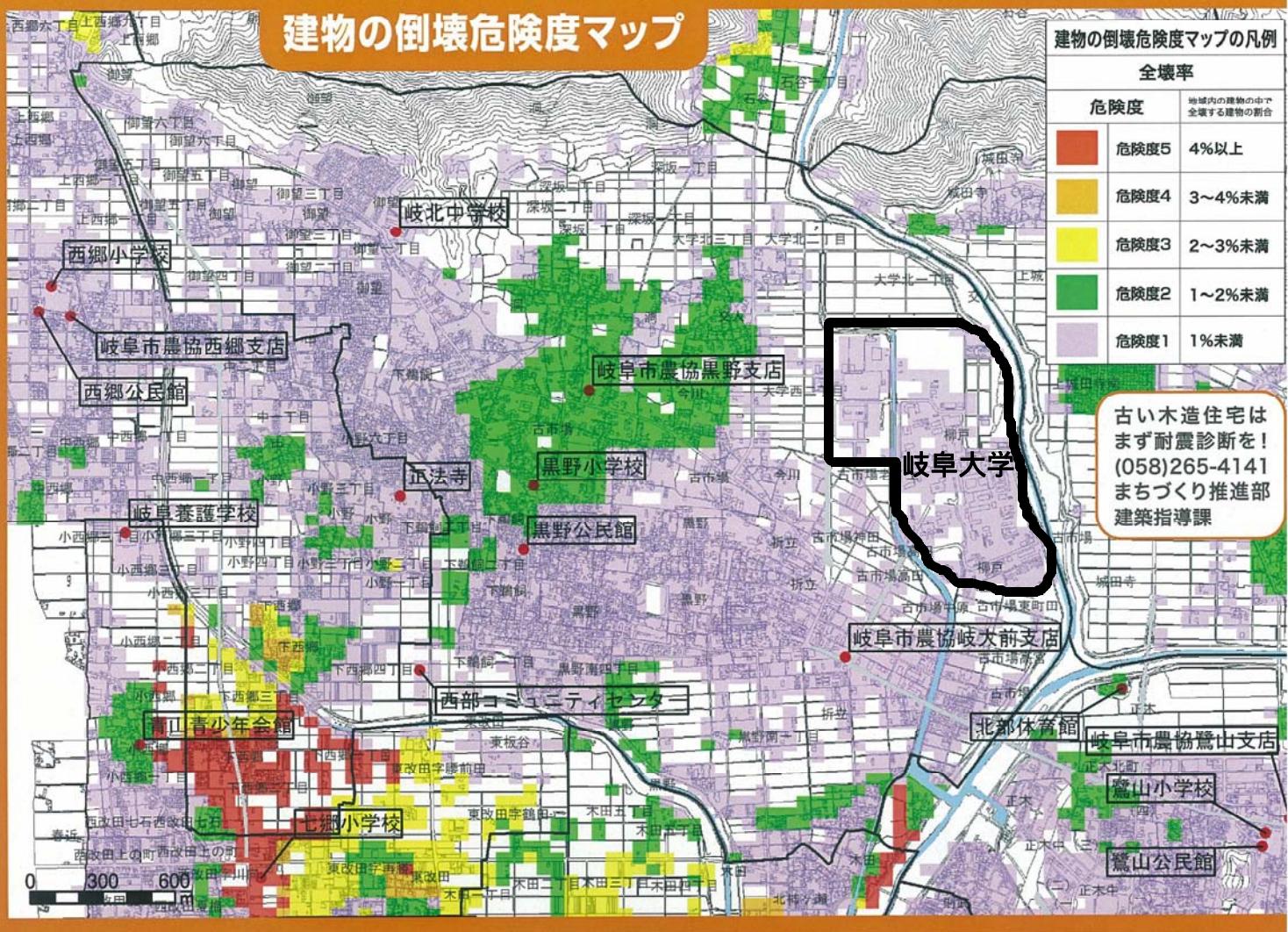
●伝言の録音方法

171▶1▶市外局番からダイヤル▶伝言を入れる

●伝言の再生方法

171▶2▶市外局番からダイヤル▶伝言聞く

建物の倒壊危険度マップ



液状化マップ

